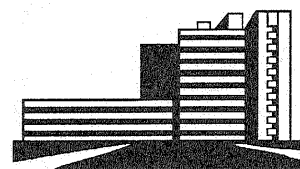


平成27年12月28日

筑波大学病院総務部総務課発行



『第2回つくばロボットスーツ HAL&CIME シンポジウム』を開催

つくば臨床医学研究開発機構

12月11日（金）筑波大学東京キャンパスにおいて、「第2回つくばロボットスーツ HAL&CIME シンポジウム」を開催しました。本シンポジウムは本学が実施している HAL に関する臨床研究成果の報告、CIME の運営及び研究事例紹介を目的としたものです。

当日は基調講演として、阪本剛 国立研究開発法人日本医療研究開発機構産学連携部 医療機器研究課調査役から「日本医療研究開発機構における医療機器開発の取り組み」、第1部では特別講演として 山海嘉之 筑波大学大学院システム情報工学研究科教授から「サイバニックシステム最前線：HAL が拓く未来医療」と題してそれぞれ講演がありました。第1部では引き続き、丸島愛樹 筑波大学医学医療系講師を含め7件の HAL の実践報告を行い、第2部では 鶴嶋英夫 筑波大学附属病院未来医工融合研究センター部長からつくば臨床医学研究開発機構未来医療融合研究センター（CIME）の紹介、最後に河上日出生 パナソニックエイジフリーライフテック株式会社リショーネプロジェクト部長より「未来医工融合研究センターを活用した実証研究～生活支援ロボット研究から」についての講演がありました。

本シンポジウムには、企業を始め、研究機関、関係者等、約130名が参加し、盛況のうちに終了しました。今後もより一層の産官学連携の臨床研究開発を支援していくことが期待されます。



シンポジウムの様子



講演いただいた方々と記念撮影

ベトナム・チョーライ病院にて術後管理セミナーを開催

国際連携推進室

筑波大学附属病院では平成 27 年度医療技術等国際展開推進事業としてベトナム・チョーライ病院との技術協力を実施しています。

その活動として 11 月 12 日に南部ベトナムの約 20 の省立病院，ホーチミン市のいくつかの病院を対象に「術後管理セミナー」をチョーライ病院を会場に開催しました。

当日は約 200 名の参加者を迎え，ICU，ICU 看護，心臓血管外科，脳外科，消化器外科といった多岐にわたる内容について，筑波大学附属病院，チョーライ病院や省立病院の発表，質疑応答が行われました。とくに，術後合併症防止のためにどのような術後管理を行ったらよいかという点においては，多くの参加者に活発な議論に参加していただきました。

ベトナムでは，診断，治療（外科系では手術），術後管理，フォローアップといった流れの中でも，手術手技などテクニックを重んじる傾向にあるため患者中心の医療が行われているとは言い難いところもあります。そのため今回のセミナーは，現地の病院に患者の診断から治療，退院までのクリニカルパス（診療計画）を考えることの重要性について伝える機会となりました。

2008 年協定締結以降，外科分野を中心に交流を続けてきましたが，このセミナーを機に筑波大学附属病院とチョーライ病院との協力をさらに深め，共同研究や相互の研修などを継続的に実施いたします。



チョーライ病院 A 講堂



開会挨拶をする 玉岡 晃 筑波大学附属病院副院長



セミナーで発表する 榎本剛史 講師



セミナー終了後記念撮影

マレーシア国・イドリス高等教育大臣一行が

筑波大学附属病院 陽子線医学利用研究センターを訪問

陽子線医学利用研究センター

平成 27 年 12 月 15 日、マレーシア国・イドリス高等教育大臣他 8 名が本学視察の一環として、陽子線医学利用研究センターを訪問されました。

今回の訪問は、マレーシアの学園都市建設構想において陽子線治療施設の建設が予定されており、本センターの運営体制等を参考にすることを目的としたものです。

初めに 松村 明 病院長より歓迎のご挨拶があり、次いで、坪井 康次 同センター長より陽子線治療及び同センターの概要等について説明がありました。その後、同センターの照射室の見学が行われ、大臣一行からは、陽子線治療に関して活発な質問がありました。

今後は、本院が持つ陽子線治療のノウハウ等がマレーシアの陽子線治療に役立つことが期待される訪問となりました。



歓迎の挨拶を述べる松村病院長



装置について熱心に質問されるイドリス大臣



陽子線治療について説明する坪井センター長



説明に耳を傾けるイドリス大臣一行

平成27年度 医学教育等関係業務功労者表彰について

病院総務部総務課

このたび、筑波大学附属病院の 蛭原紀枝 臨床検査技師が平成 27 年度医学教育等関係業務功労者として、平成 27 年 12 月 2 日に文部科学大臣から表彰を受けました。この表彰は、国公私立大学の医学又は歯学に関する教育、研究若しくは患者診療等に係る補助的業務に永年勤務し、顕著な功労があった者を表彰するものであり、蛭原臨床検査技師の 34 年に渡る臨床検査技師としての業務が認められたものです。

12 月 7 日に 松村明 病院長に表彰の報告を行い、病院長からは、お祝いとねぎらいの言葉をいただきました。



左から、南木融 臨床検査技師長，蛭原紀枝 臨床検査技師，松村明 病院長

筑波大学附属病院けやき棟中庭にイルミネーションが点灯

病院総務部総務課

12月16日（水）筑波大学附属病院けやき棟中庭に今年度もイルミネーションが設置され、17時30分に点灯式が行われました。

はじめに 小泉仁子 看護部長のご挨拶があり、その後参加者一同による「3. 2. 1. GO!」の掛け声に合わせて、音楽とともに華やかなイルミネーションが点灯しました。ドーム型のガーデンオブジェやスノーマン、コーンツリーなどが幻想的な光を放ち、多くの来場者を魅了しました。

なお、イルミネーションは2月25日（木）まで飾られます。16時から19時30分まで点灯され、16時、16時30分、17時、17時30分、18時には併せて音楽も流れます。ぜひご覧ください。



挨拶をする小泉看護部長



スノーマンと一緒に記念撮影

患者さんのためのコンサートを開催

病院総務部医事課

12月14日（月）16時から、筑波大学附属病院けやき棟1階けやきプラザにおいて、恒例の患者さんのためのクリスマスコンサートを開催しました。

コンサートでは、医学フィルハーモニー（本学学生）と関係教職員がオーケストラの多彩な音色を披露しました。

演奏曲は、ブランデンブルク6番を始め、カノン、ジングルベル、きよしこの夜に続き、最後に東日本大震災の際に制作されたチャリティーソング「花は咲く」を、来場した皆さんとともに合唱しました。アンコール曲は、映画『アナと雪の女王』主題歌「Let It Go～ありのまままで～」が披露されました。素敵な演奏の中、会場全体が一体となり、一足早いクリスマスの訪れとなりました。

会場は大勢の患者さんで賑わい、明るく楽しいひと時を過ごしました。



クリスマスコンサートの様子1



「花は咲く」の合唱の様子



クリスマスコンサートの様子2



医学フィルハーモニー（本学学生）関係教職員による
記念写真

◎ 11月紹介患者月別調査表

	(A) 紹介患者 数(人)	(B) 逆紹介患 者数(人)	(C) 救急自動車による 搬入患者数(人) (上記のうち初診患者数 をC'とし、内数で表す)	(D) 初診患者数(人) (上記のうち休日等6 歳未満患者数をD'と し、内数で表す)	診療報酬上 の紹介率 (A+C')÷D (%)
11月	1,476	1,293	303	1,790	91.4

◎ 11月院外処方せん発行枚数等

	診療 日数 (日)	発行処方せん 総枚数(枚)	うち 院外発行処方 せん枚数(枚)	院外処方せん 発行率(%)	1日平均 処方せん 枚数(枚)	1日平均院外 処方せん枚数 (枚)
11月	19	15,134	13,449	88.87	796.5	707.8

◎ 11月曜日別外来患者数

	曜日	月	火	水	木	金
11月	平均	1,755人	1,722人	1,656人	1,757人	1,564人
	最高	1,961人	1,833人	1,844人	1,848人	1,649人
	最低	1,512人	1,651人	1,541人	1,632人	1,504人

◎ 11月患者数

	入 院			外 来	
	延 数 (人)	1日平均数 (人)	病床稼働率 (%)	延 数 (人)	1日平均数 (人)
11月	21,948	731.6	91.5	32,417	1,706.2

病院ニュースは、次のアドレスでご覧になれます。

<http://www.s.hosp.tsukuba.ac.jp/innai/news/> (院内のみ)

病院HPでも一部抜粋して掲載しています。

<http://www.s.hosp.tsukuba.ac.jp/>

「病院ニュース」の次回(448号)の発行は1月29日(金)、原稿締切りは1月22日(金)となります。

「病院ニュース」への寄稿に際しては、できる限り電子ファイル等をお願いします。

なお、掲載情報については、文教速報(官庁通信社発行)等学外へ提供することがありますので、あらかじめご了承ください。

e-mail:hsp.somuka@un.tsukuba.ac.jp 病院総務部総務課総務担当(3519, 3521)